

いは達成を願っていると推測しているのであるが、そうしたことへの注視、あるいは関心が薄くなっているのだろうか、先に示した札所への奉納物を目にする機会は今では減多にない。しかし西端氏が遍路をした時期は多くの札所で目にする事ができたようである（註③）。

こうした霊験話は慎重な取扱いが必要であろうが、同時に医療関係者や心理学分野の専門家等の参加を得てその内容の真摯な学問的な検討の場が必要である。

2 遍路文化の活用に向けて

(1) サンティアゴ巡礼における道標の紹介

①巡礼道の設定と車道との分離

サンティアゴ巡礼の調査の折、車道を走っている車の車窓から巡礼道が見えた（図7）。この道は未舗装の地

道であった。サンティアゴ・デ・コンポステーラに近い農村では、車道と巡礼道が区分され標識でもその区分が明示されていた（図8・9）。この2例のように車道と巡礼道が区分されていると巡礼者は安心して歩ける。

②標識の工夫

イメージの統一。(i) ホタテ貝のイメージ化。サンティアゴ巡礼では、巡礼者や巡礼にかかわるものを示すのに巡礼の象徴ホタテ貝を意匠化したものがつくられ、様々な標識に活用されている。

(a) ホタテ貝とその意匠化。図10と図11に示した。

(b) 巡礼者のイメージ化。図12に示した。瓢箪をぶら下げた杖をもつ歩行者。これが巡礼者のイメージのデザインである。図9にもある。



図7 車窓から見た巡礼道
巡礼道は車道と畑の間の地道



図8 車道と巡礼道の区分のある道
左の白線の外が巡礼道



図9 道の利用規制看板
図8の右端にある看板

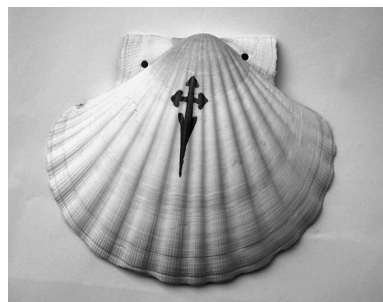


図10 ホタテ貝

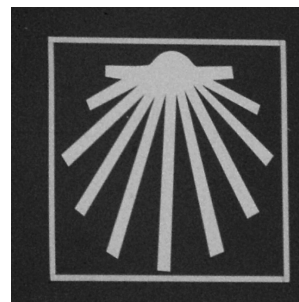


図11 左の意匠化



図12 巡礼者の意匠

図10はサンティアゴ・デ・コンポステーラで購入したホタテ貝（土産品）。赤色剣十字は聖人サンティアゴを示す。また上部にある2個の黒点は紐をとおす穴。